

エネルギーシステム・要素論

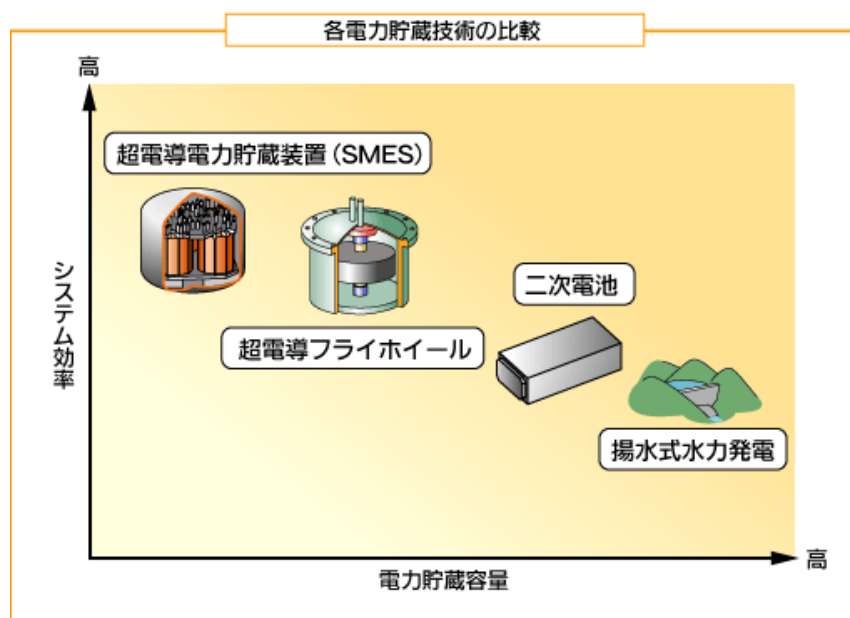
第1回 電力貯蔵・電源

平成26年11月11日

主な電力用エネルギーシステム

電気エネルギー⇔

電力貯蔵とは電力・エネルギー変換技術



<http://app2.infoc.nedo.go.jp/kaisetsu/egy/ey10/index.html>

- 位置エネルギー (水力発電)
- 熱力学エネルギー (火力発電, CAES)
- 運動エネルギー (フライホイール, 風力発電)
- 電磁エネルギー (SMES, EDLC)
- 化学エネルギー (電池)

→ 可逆動作で電力貯蔵装置として利用可能

揚水発電

- 位置エネルギーの変換
- 電力貯蔵としての効率約70%
 - 水の位置エネルギー ⇔ 水の運動エネルギー ⇔ 水車の回転(運動)エネルギー ⇔ 発電機の電気エネルギー
- 揚水発電所の構成
 - 別置式 水車とポンプを別個に配置
 - タンデム式 電動発電機と同軸に水車・ポンプを接続
 - 可逆式 ポンプ水車を利用

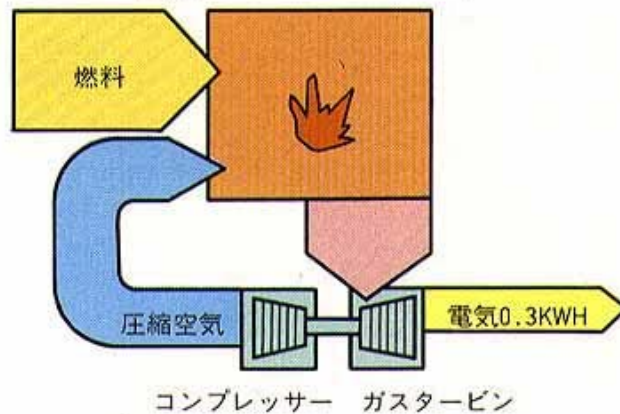
揚水発電の発展

- 従来型揚水発電
 - 発電 ガバナーで出力調整可
 - 揚水 同期速度で電動機を回転。揚水電力一定
- 可変速揚水発電
 - 揚水 電動機を可変速駆動する事により、揚水電力を可変可能
 - 深夜の可変負荷として重要
 - 水車運転時とポンプ運転時の最高効率となる回転数が異なるため、夫々に合わせて運転する事で損失を低減可能
 - サイクロコンバータによる回転子励磁。回転子速度可変、固定子出力周波数一定
 - 1992年 関西電力大河内発電所

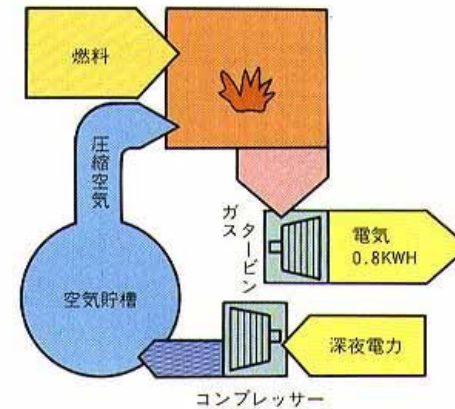
圧縮空気貯蔵

CAES-G/T(Compressed Air Energy Storage Gas Turbine)発電 熱力学エネルギーの変換

(a)ガスタービン発電



(b)CAES-G/T



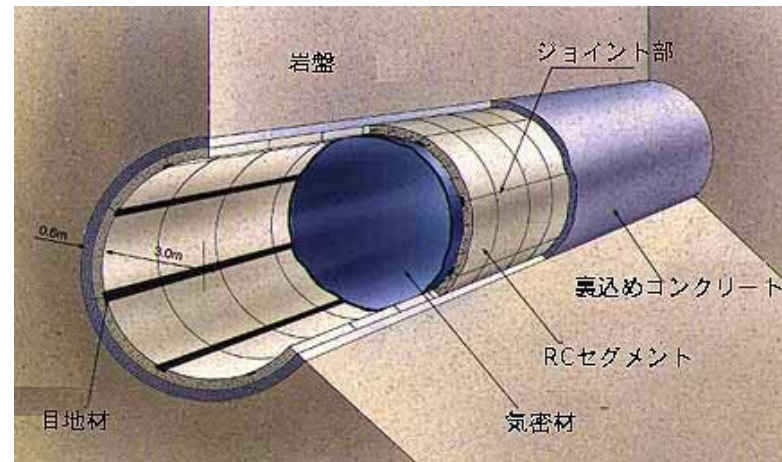
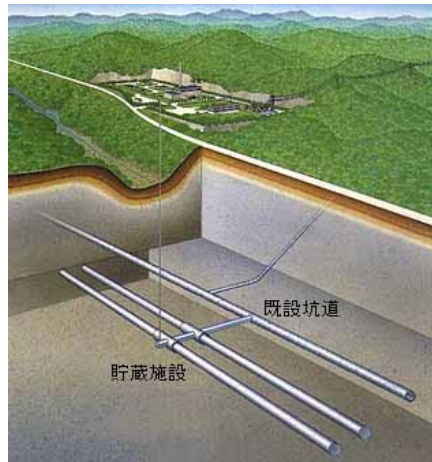
- ガスタービン発電の特長と課題

- 電力負荷への追従性に優れている
 - ピーク負荷対応
- 立地条件の制約が少ない
- 建設費が安い
- 空気圧縮機を駆動して高圧空気を作りながら発電を行う
- 燃料の約2/3が空気の圧縮に消費される→効率悪い

- CAES-G/T発電の特長

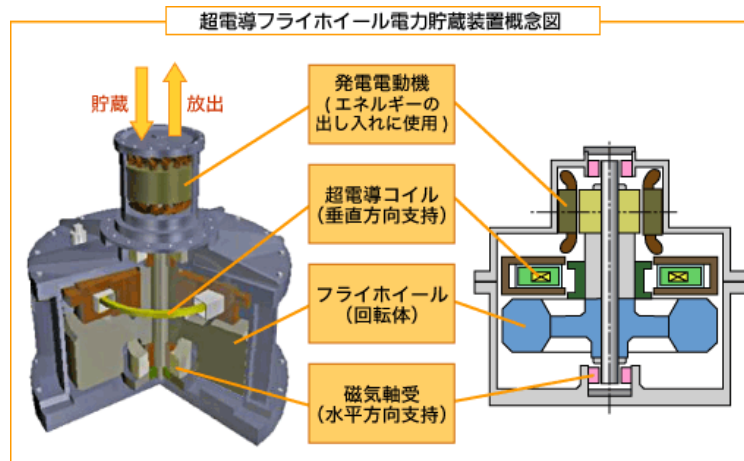
- ガスタービン発電の空気圧縮を余剰電力で行う
- 同じ発電出力を得るために必要な化石燃料が約1/3になる。→高効率

新エネルギー財団/圧縮空気貯蔵ガスタービン (CAES-G/T)パイロットプラント



- 海外の事例
 - 1978年に旧西独フントルフ(29万kW)
 - 1991年には米国マッキントッシュ
- 圧縮空気の貯蔵に岩塩層空洞を利用
 - 高い気密性が確保できる
 - 空洞建設が経済的に行える
- 圧縮空気貯蔵ガスタービン(CAES-G/T)パイロットプラント
 - 平成2年度～
 - 所在地:北海道空知郡砂川町
 - 高压空気貯蔵空洞をいかに経済的に建設するかが課題

フライホイール



<http://app2.infoc.nedo.go.jp/kaisetsu/egy/ey10/index.html>

- 運動エネルギーとして貯蔵
 - 大きなエネルギーの貯蔵
 - 回転体の運動エネルギー
$$\frac{1}{2}I\omega^2$$
 - 大きな質量のフライホイール
 - 速い速度でフライホイールを回転させる
- 回転損低減
 - 風損低減(真空化)
 - 磁気軸受け
- 可変速駆動